

西村山地域の新たな医療提供体制の構築に関する考え方

- 西村山地域においては、中等度から比較的軽度な救急患者に加え、回復期・慢性期の医療・介護サービスを必要とする後期高齢者(特に 85 歳以上)の増加に対応するため、高齢者に多い疾病等(誤嚥性肺炎・肺炎、骨折、慢性心不全、尿路感染症等)の一般入院・外来に対応する必要がある、これらの患者に対応するための医療機能と医療・介護の連携体制を確保する必要がある。
- 一方、西村山地域では、人口減少に応じて患者数も減少していく傾向にあり、特に外来患者数は大幅に減少する。
- 西村山地域の公立病院は、患者数の減少が医師配置数の減少と経営の悪化を招き、医師配置数の減少による医療機能の縮小が、さらなる患者数の減少と経営の悪化を招くという悪循環に陥っている。
- 西村山地域では多額の公費を投じて公立病院が維持・運営されている。今後の更なる人口減少を鑑みれば、医療従事者の確保も含め、現状のようにそれぞれの自治体が単独で病院を維持し続けることは困難である。
- よって、将来にわたり継続して地域住民に必要な医療サービスを提供するためには、西村山地域の自治体と県が協力し、病院を再編して医療機能と医療従事者の集約を行うことにより、今後必要とされる医療機能を確保し、新たな医療提供体制を構築する必要がある。

⇒ 県立河北病院と寒河江市立病院の統合を軸に検討を行う。